



R&D Center (Thailand) のご紹介

渡辺 良夫*

Introduction of R&D Center (Thailand)

Yoshio Watanabe*

タイランドサイエンスパークはバンコク市街地から北に車で約1時間のところにあるタイ王国最大の研究開発拠点です。遺伝子生命工学研究センター (BIOTEC)、金属材料技術研究センター (MTEC)、電子コンピューター技術研究センター (NECTEC)、ナノテクノロジー研究センター (NANOTEC) などの施設の他、周囲にはタマサート大学やアジア工科大学院、サッカーワールドカップ予選を行えるタマサートスタジアムなどがあり、緑豊かで、散歩中のオオトカゲに出くわすこともある環境のよい場所に立地しています。その中のイノベーションクラスター2-Dビルディングの最上階 (11F) にR&D Center (Thailand)があります。2018年9月に設立し、2019年5月からUACJ (Thailand) Co., Ltd.の組織下で運営を開始しました。UACJとしては日本、北米に次いで三か国目となる研究開発拠点であり、アセアン地域のお客様やグループ各社への技術サービスの提供、地域のニーズに応じた新製品と新技術の開発を目的としています。

当初人員は先行して赴任していた日本人Senior Managerと筆者の二人だけでしたが、タイ人の技術ス

タッフと事務系スタッフが加わり、さらにラヨン製造所のタイ人技術スタッフが駐在するようになって現在は5名で400平米の空間を専有しています。将来は、今ある20の机が無駄なく使えるまでに人員を増やし、研究開発拠点にふさわしい成果を挙げることを目指しています。現時点はガラガラの実験室への装置導入を進める中で、ラヨン製造所の技術的な課題に微力ながら対応しています。また、2020年は新型コロナの影響で対外活動がしにくくなっていますが、2019年には講演会、国際会議、工業展でのプレゼンや聴講、お客様や公的機関との交流を通して研究開発ニーズ、市場動向などを調査してきました。このような業務を進める上で、サイエンスパークは都合がよく、MTECとは共同研究できるだけでなく、結びつきのある企業や大学の情報を得ることができます。隣接する建物にあるNSTDA分析試験センターは一般的分析装置から高度な分析装置まで多数取り揃え、試験依頼を受けてくれるので、当方に自前の実験装置がなくともある程度の研究を進めることができます。また、EECi (東部経済回廊イノベーション, Eastern Economic Corridor of innovation)



Fig. 1 Innovation Cluster II building.



Fig. 2 Members working in R&D Center (Thailand).

* R&D Center (Thailand), UACJ (Thailand) Co., Ltd.

事務所があるほか、90を超える企業が研究開発スペースに入所していて、情報源として有望です。一方で不便なのが、我々日本人が居住するバンコクやラヨン製造所からの移動です。渋滞がなければ問題ないのですが、有名なバンコクの渋滞だけでなく、サイエンスパーク近辺も夕方は大渋滞します。金曜日の雷雨時はそれこそ蟻並みの速度となり、わずか2～3 km先の大通りにでるまでに、1時間半を要することもありました。移動する車の中での時間の使い方が大きな課題だな、と感じながら毎日職場に足を運んでいます。

静かで日本とは異なる環境のもと、ともすればスピード感が鈍くなるのを、時折、日本のR&Dやラヨン製造所、バンコク事務所などからの刺激で修正しながら、慣れない業務を進めています。まだまだ、R&D Centerと言えるほどの規模ではなく、戦力もありませんが、リソースの拡大を図りながら、タイにおける顧客、UACJグループから頼られる存在になることで、タイの産業発展にも貢献していきたいと考えています。



Fig. 3 Exhibition at Thailand Industry Expo 2019.



渡辺 良夫 (Yoshio Watanabe)
R&D Center (Thailand),
UACJ (Thailand) Co., Ltd.